

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成24年10月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670102518号
法人名	医療法人春風会
事業所名	グループホームはるかぜ荒田1F
所在地	鹿児島市下荒田2丁目39-1 (電話) 812-3866
自己評価作成日	平成24年9月7日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成24年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市の中心部に位置しており、国道225線に近く、バスの交通機関にも利便性が高いのでご家族の方にも訪問しやすい環境にあり、又閑静な住宅街であるため、騒音もなく穏やかな時の中で入居者は過ごされている。同じ建物に有料老人ホームが併設されている為、防災訓練、折りに触れ、イベント等で交流する機会もある。地域の子供達にぎやかに集う古田ヶ浜公園への散歩などで気分転換を図り、季節を感じて頂きながら、生活リハビリに取り組んでおり、協力医療機関の田上記念病院を始めとして、緊急時には、近医も多数あり、日頃の健康管理から医療連携を重視、促進できるように努めております。

平成13年に設立された「はるかぜ荒田」は現在地に移転し、一年半を経過しているホームである。利用者は移転に伴うトラブルもなく、当ホームの新築を喜び、新管理者の下で明るい新天地での生活を楽しんでいる。今回の外部評価のアンケートも100パーセントの回収率で、家族は管理者、職員に対して感謝と高い信頼を表したコメントをしている。同じ建物内に併設の有料老人ホームがあり、防災訓練やイベントなど合同で実施、また町内会にも加入し地域との交流も大切にしている。職員は理念追求に徹したケアに励み、月1回のホーム便りとともに利用者個々の生活を詳細に伝える「暮らしの日記」を発送し、家族から高く評価されている。同一法人に医療機関があり、保健医療面や緊急時の対応なども連携が確保できている。また管理者が看護師資格を持ち健康面の管理も行き届いている。利用者、職員が人間としての尊厳、生きがいを感じ、家庭的で温かな雰囲気的大事に生き生きとした表情で生活、勤務している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼時に必ず唱和を行いスタッフそれぞれが個々の入居者に対応する心構えとしてとらえられるように常時、念頭に置いている。	理念をパンフレットに明示、事業所内にも掲示し、朝礼時に唱和し、日々のケアに取り組んでいる。毎年、全職員で作らせた年間目標を掲げ、意識しながらきめ細かなサービスを提供している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会加入しており、地域の文化祭、運動会防災訓練などに参加して交流を深めている。	ホームで作成したものを地域の文化祭に出品、また地域の防災訓練にも参加し、行事にも協力している。中学校の職場体験や高校生の実習受け入れも行い、今後は地区婦人会のボランティアも考慮中である。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	事業所での活動状況、知識を地域の方々に伝えることが出来る様に地域の代表者の方、近隣の方々と話し合う機会がある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者、ご家族他。地域包括、消防への参加を呼びかけ実施しており、質問意見、要望等を取り入れサービス向上に努めている。	面会時を捉え、家族や色々な立場の人に参加の呼びかけを行っている。ホームの現状報告、事故報告、意見交換、要望などを聞きサービス向上につなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>更新認定時、又問題が生じた場合等は訪問、TELで連絡を行い入居者の課題解決について、相談を行っている。</p>	<p>市の窓口担当者とは更新認定、事故報告など連絡、相談などで協力関係があり、介護相談の受け入れも行っている。市より高齢者のお祝い訪問もある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>毎月行う職場会議に於いて身体拘束委員会と共に、現実のケアが該当の有無はないかを質疑を行い、検討している。</p>	<p>契約書に「いかなる理由があっても心身の拘束は絶対行わない」と、明記、実践している。管理者は職員に認知症についての理解度深めてもらい、自分の感情で行動しないよう指導し、利用者の心身の尊厳に努めるケアに取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>毎月の職場会議に於いて虐待防止について、意識が高められる様に質疑を行い、スタッフ同士が注意できる環境雰囲気づくりを心がけている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員研修で勉強会を行い、入居者により、必要な場合には、情報提供に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、なるべく時間を取り丁寧な説明を行い、理解が得られる様に努めている。解約時には今後の予測、方向性について助言を行っている。改定時には文書で確認を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員派遣、家族会、家族訪問時により、本人の思いなど伺い、表出された要望意見等をケア、運営に生かせるようにしている。	重要事項に第三者委員（家族代表、地域住民代表）を明記し、家族会も年2回実施している。月1回便りと一緒に個々の「暮らしの日記」を送付しホームでの私生活を知らせ、家族に安心と信頼を得ている。小口現金の支払いを窓口持参にし、面会の機会を増やしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	介護相談員派遣、家族会、家族訪問時により、本人の思いなど伺い、表出された要望意見等をケア、運営に生かせるようにしている。	朝の申し送りはユニット合同で行い、情報の共有化を図っている。管理者は職員個々と面談し、働きやすい職場環境作りに努めている。また、職員は夫々の委員会に所属、役割りを果たしながら個々の資質向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康診断を年2回実施しており、健康維持できるようにしている。又、給与面にも見直しを行い、職場環境整備に努めている。		

鹿児島県 グループホームはるかぜ荒田 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所内外で開催される研修やセミナーにはなるべく多くの職員が参加するように呼びかけており、職場会議で研修報告、感想を伝えてもらっている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>関連の事業者と情報交換を行い相互にサービスの質の向上を目指している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族のみならず本人様にも見学して頂き、ホームでの生活ではスタッフが常に見守り、援助者であることを説明して少しでも不安を取り除ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にこれまでの生活状況とご本人の関わりの把握を行い、どのようにスタッフが援助を行うのかをきちんと説明する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にご本人、ご家族の実際に何が最も困っているのかをきちんと把握するように努め、充実できるように方向性を考慮する。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの人生経験と、家事、植物の世話などを教えて頂く機会を大切にして、その人の得意分野を引き出せる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の日々の暮らしの様子や状況を毎月のお便り便で実施、面会時には、居室でゆっくり会話できるように配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族も高齢化で、疎遠となり訪問できない状況もあり、TEL連絡等行い関係性が保てるように取り持ったりしている。又、友人知人の面会時には、ゆっくり会話できるように配慮を行う。	近隣での買物や新聞の購読など今までの生活の継続を支援している。教え子、友人の面会が続いている利用者もいる。本人の思いを汲み取ってなじみの人や場との関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは、それぞれの入居者に同じように声かけ及び働きかけに努めており、お茶時間、レクリエーション、家事手伝い等円滑になるように調整役を行う。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約時同様、今後の方向性について、情報提供を行い、入院中にも様子伺いをして困り事に対して展望が開けるように助言を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフは、入居者のケア、会話時から、その思いの把握に努め、全員で情報共有を図りつつ対応するようにしている。	日常の会話、表情、言動から思いや意向の把握に努め、利用者に応じた声掛け、スキンシップを行っている。本人の思いを汲み取って希望がかなえられるよう、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より、なるべく詳細に情報収集に努めており、不足の部分は、入居後も折りを観て補足している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者のプライバシーに配慮しつつ、その方の生活リズムのパターンを把握して個別性と共に集団活動に馴染んで頂けるように支援する。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を基にしてケアと声かけを行い、気づきや工夫を記録に記載するようにしており、日々、引き継ぎの時間等に情報共有、毎月1回モニタリング実施して、評価を行い周知する。	本人の思いや希望をサービスに取り入れ、個々に応じた計画を作成している。又、個々に出来ることを目標にし、達成感を味わえるように支援している介護計画もあり評価できる。定期的な見直しは6ヵ月毎であり変化があればその都度行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の変化、気づきについて都度、スタッフ間で情報共有を行い、記録に残し、必要時はスタッフ間で検討して日々より良く生活できるように工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人及びご家族の生活状況に応じて、通院、送迎等の支援などについては、柔軟な対応を心がけて支援している。必要時はご本人とご家族同伴で、医師の病状説明を受けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者がホーム内のみ留まらず外部に向けて意識つけられるように、近隣の公園など散歩、地域の方々との交流の場など積極的に活用、近隣の中学校の職場体験、各種ボランティア等		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医とのこれまでの信頼関係を重視しており、医療連携により、日頃から健康状態の把握を行い情報提供を行っている。	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族が同行する際はホームより情報提供書を持たせ、また主治医より返書ももらっている。医療連携体制加算もあり、ホームに看護師も常勤、健康管理は徹底されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員の配置あり、介護スタッフは、毎日、ケアを通じて状態変化を把握して、看護職員へ報告と連絡を行い、看護職は必要時、医療機関へ適切な処置が受けれるように繋げている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時、必要な、これまでの看護、介護サマリーを文書にて情報提供を行い、入院中には、治療経過を確認しつつ、本人の心身の状況把握を行い、ホームでの受け入れを早期でできるようにアプローチをしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に重度化した場合のご本人、ご家族の意向を確認しており、状態変化に応じて、ご家族医師、看護師共に話し合いホームで可能な支援を行っている。その際、医療機関とは密に連絡体制を取っている。</p>	<p>入居時、重度化の指針について説明し家族の意向としての緊急時確認書を貰っている。入居後は主治医の指示の下、家族と方向性を話し合い、関係者全員が方針を共有、ホームで出来る最大限の支援を行っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>入居者の急変時、事故発生時の対応マニュアルにより、定期的に勉強会を行っている。応急手当等、スタッフ間で実施できるようにスキルアップに努めている。</p>		

鹿児島県 グループホームはるかぜ荒田 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼夜それぞれの火災を対象に避難訓練している。その際、中央消防の立会い、助言指導を頂いており、地域との合同防災訓練にも参加している。	併設の有料老人ホームと合同で避難訓練を行っている。地域の防災訓練にも利用者と参加し、非常時には有料老人ホーム、地域との協力体制もできている。備蓄も確保されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日の申し送り、職場会議の中でスタッフの意識向上に努めており、個々の入居者に対しての言葉遣いは、尊厳が守られるように心がけている。	一人ひとりの人格を尊重しながら日々のケアに取り組んでいる。毎月の勉強会で、目立たずさりげない言葉かけ、自己決定しやすい言葉かけについて話し合っている。日常気づいたことは注意し合い、資質の向上に向けて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	先ず、入居者の思い、希望を伺いながら、困難な状況でも近い状態を考慮工夫する。自己決定の困難な場合には、表情、身振り等把握してサポートする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の入居者の生活リズムと基本的な1日の流れを無理なく合わせられる様に努めている。体調を考慮しながら、個別性を重視する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人の好みを伺いながら、できない部分のお手伝いをする。理美容訪問サービスを導入しており、馴染みの理美容院などにもご家族同伴で外出の機会となる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みと力量を生かし、役割を依頼して、食材の下ごしらえ、片づけ等共に実施しておりスタッフと入居者が一緒に同じテーブルで楽しい雰囲気ですること大切にしてている。	食事はホームの生活リハビリとして出来ることは利用者にも手伝ってもらっている。ホーム内で季節の野菜を作って収穫、メニューに載せている。利用者の状態に応じて個別食を用意している。弁当持参の外出や、誕生会には手作りケーキでお祝いしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量及び、飲水量の確認を行い、個別に記録しており、個々の入居者に合わせた食事形態に配慮を行い、季節感のある食材を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々自分でできる範囲を口腔ケアをして頂き、仕上げ及び確認をスタッフが実施する義歯の状態は適切か、チェック義歯洗浄剤、毎週3回使用。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自力排泄の可能な場合は、声かけ、誘導を行い、尿便意の不明瞭な場合は、トイレ誘導して着座、様子を観ながら排泄パターンを把握、排泄動作は、できない部分の支援を実施している。失禁時、言葉かけに注意行う。	利用者の排泄パターンに応じてトイレ誘導の声掛けを行い、トイレでの排泄を促している。失敗しても利用者が傷つかないように言動に注意している。自立している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	先ず、自然排泄を促すように食材の工夫で、食物繊維の多い物を取り入れ、個別的に牛乳、腹部のマッサージ、適度な運動を促すDrへ内服コントロール等相談をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は決めているが、個々の体調と希望により、対応している。入浴剤を使用して香りと色などでリラックスして楽しめるように工夫している。	基本的には週3回であるが希望や体調により柔軟に支援している。入浴をためらう利用者にはタイミングを計りながら工夫している。足浴も積極的に取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動を促し、生活リズムを整えるようにしており、一人ひとりの体調には充分配慮を行い、快適な室温調整、騒音防止等配慮を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服入れ袋に説明書きを入れて処方薬を常時把握するように努めている。処方変更時は看護師が、連絡帳に記載してスタッフが周知できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で植物の水やり、手入れ、塗り絵、洗濯たたみ、衣類の整理等、力量と好みに合わせた支援により楽しみと達成感など得ることができるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の公園、ストアーなど、声かけを行い、なるべく戸外へ外出する機会を大切にしている。天気が悪い時は法人内施設を散歩、施設内で普段、園外活動などで行けない場所などは、ご家族に働きかけ協力を得るようにしている。	日常的に近隣の公園、ストアーに出かけている。普段行けない所は個別に家族の協力を得て支援している。地域行事やホーム行事でソーメン流し、コスモス見学、水族館等へ出かけ、外出を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より、日用品代などの金額を預かり、事務所管理としているが、個別的に、ストアーで買い物をして、自分で支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族、友人、知人にTELの取次をしたりしている。又、手紙なども受け取り、支援している本人が判らない時には、ご家族に随時、連絡行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花を玄関、廊下、DRに置いて季節を感じて頂けるように、又、家庭的な雰囲気が出るように配慮している。	台所から食事の匂いがしたり、季節の草花を玄関、廊下に置いて季節を感じてもらうなど五感の刺激を促す環境を提供している。月1回フラワーアレンジメントで心が安らぐような雰囲気が出る工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	DRにソファを置いて一人で過ごせる時間を作ったり、入居者同士で会話できるように雰囲気づくりを行っている。		

鹿児島県 グループホームはるかぜ荒田 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に今迄の生活の中で馴染みのある物品等置いて頂き、ご本人が落ち着いて過ごせるように工夫している。室温調整には特に注意している。	テレビ、ソファ、タンス、仏壇、時計、人形、飾り物、鏡台などなじみのものが置かれ、本人が居心地よく過せるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の判らない入居者には、名前、時に目印等入口に貼り、繰り返し理解を得れるように工夫を行い、車いす、シルバーカー、歩行器、杖等の配置には、注意整理整頓を実施している。		